

## 第2章 東広島市の概要

### 2-1.東広島市の位置と歴史

#### (1) 位置

本市は、広島県のほぼ中心に位置しており、北は三次市及び安芸高田市、東は三原市及び世羅町、西は広島市及び熊野町、南は呉市及び竹原市に面しています。



【図2-1】東広島市の位置

#### (2) 歴史

本市は、昭和49（1974）年に西条町、八本松町、志和町、高屋町の4町の合併により誕生しました。

長い歴史と伝統、恵まれた自然環境を背景に「人間と自然の調和のとれた学園都市」を将来の都市像に掲げ、賀茂学園都市建設、広島中央テクノポリス建設の2大プロジェクトを推進し、広島大学の統合移転や近畿大学工学部の移転統合など学術研究機能の集積を進めるとともに、産業団地、産業支援機関などの産業基盤の整備や、新幹線東広島駅、山陽自動車道など高速交通網の整備などにより、都市としての骨格を形成し、大きく発展してきました。

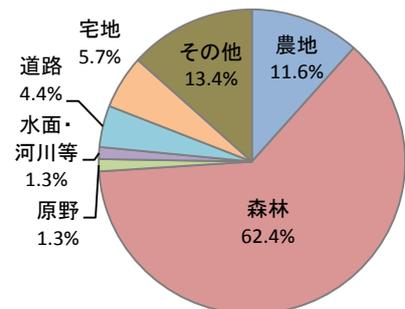
その後、本市は、平成17（2005）年2月の黒瀬町、福富町、豊栄町、河内町、安芸津町との合併を経て、新たな東広島市としてスタートし、平成20（2008）年2月には「未来にはばたく国際学術研究都市～ともに育み、人が輝くまち～」を新しい将来都市像に掲げ、まちづくりを進めてきています。

### 2-2.土地利用状況

#### (1) 土地利用

本市は概ね市域の周囲を森林が取り囲んでおり、その内側に広がる平坦地において、主に幹線道路沿いや鉄道駅を中心に宅地が形成されています。また、これら市街地の周辺に農地が広がっています。

【グラフ2-2】地目別土地利用の現況  
(平成25年度現在)



市域の構成を平成 25（2013）年度の土地利用の面で見ると、森林、原野、水面・河川・水路を含む自然的土地利用が 65.0%となっており、宅地、道路、その他を含む都市的土地利用が 23.5%、農業的土地利用が 11.6%となっています。



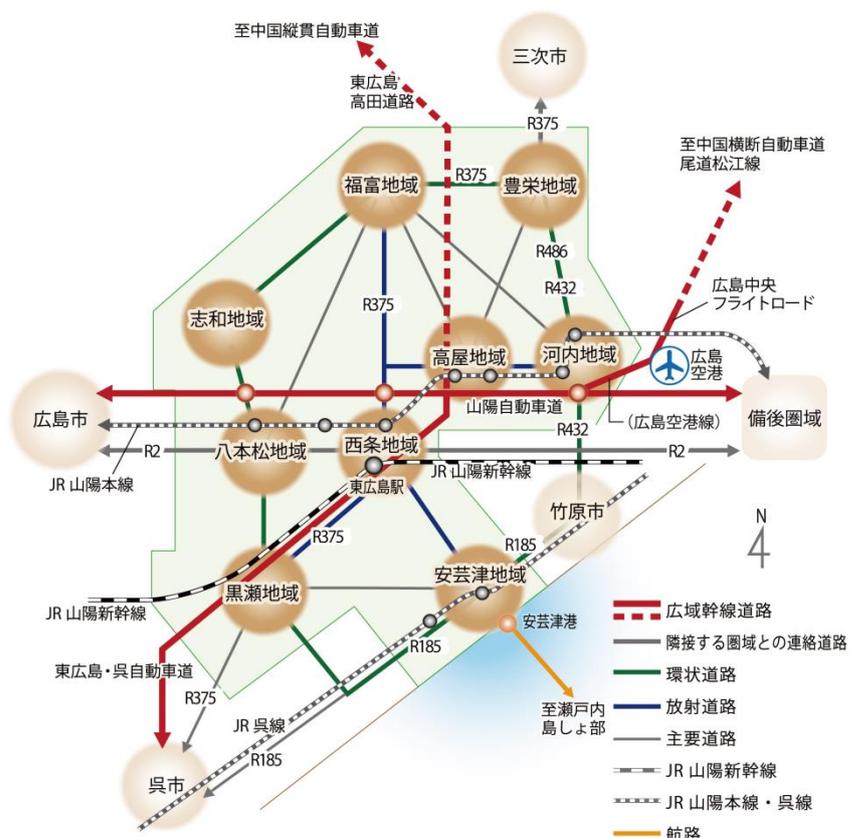
【図 2-3】空から見た東広島市

(2) 道路、交通

本市における広域的な高規格道路網は、山陽自動車道のほか、東広島・呉自動車道が全線開通しています。また、国道 2 号安芸バイパスの整備が進められており、北部を縦断して安芸高田市に至る東広島高田道路が計画されています。

地域間の幹線道路網は、東西方向では国道 2 号及び国道 486 号と沿岸部の国道 185 号が、南北方向では国道 375 号及び国道 432 号が幹線としての役割を果たしているほか、主要地方道、一般県道が国道を補完してネットワークを形成しています。また、これらに連絡する市道が市民の日常生活を支えています。

本市の公共交通は、JR山陽本線、呉線、JR山陽新幹線の鉄道、バス路線、航路、近接する広島空港など、多様な交通機関を利用することが可能となっています。



【図 2-4】交通ネットワーク

## 2-3.人口

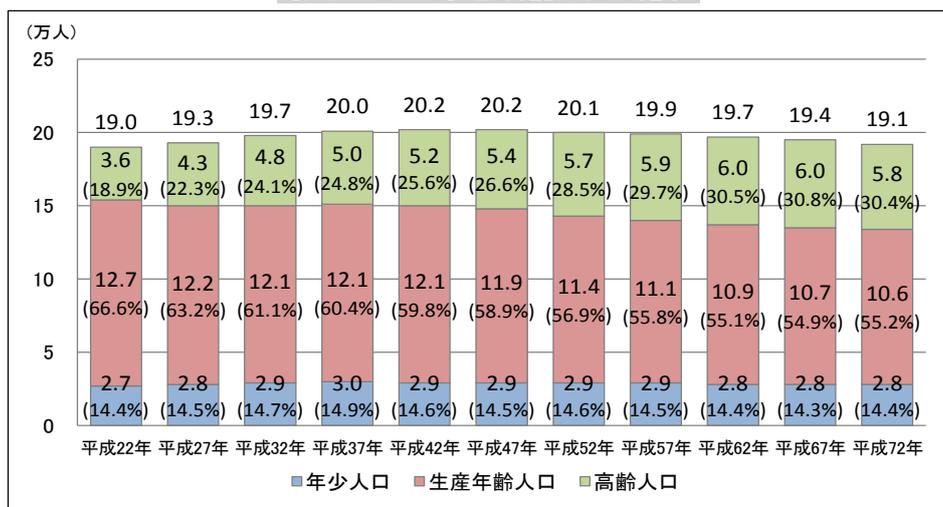
### (1) 人口の動向（本市全体の人口推移と将来推計）

全国の人口は、平成 20（2008）年をピークとして減少局面に入っており、また、高齢化も進行してきており、今後、加速度的に人口減少が進み、高齢化が進行すると予想されています。

一方、本市の人口は、大学の移転や好調な企業立地を背景に、順調に増加を続けてきました。特に、本市においては、20 歳前後の学生が多いのが特徴です。今後、人口構成で多数を占める団塊の世代の減少、少子化の影響や大幅な社会増<sup>(※1)</sup>が見込めないことから、将来的には人口減少に転じることが予測されています。

そのため、今後 10 年間は、産業振興や子育て支援、定住促進を重点的に推進し、市民生活の向上と都市機能の強化を図ることで、早期に出生率の向上を図るとともに、持続的な社会増を実現することで、その後の人口減少を抑制し、平成 72（2060）年に人口 19.1 万人を維持することを目標としています。

【グラフ2-5】目標推計人口の推移

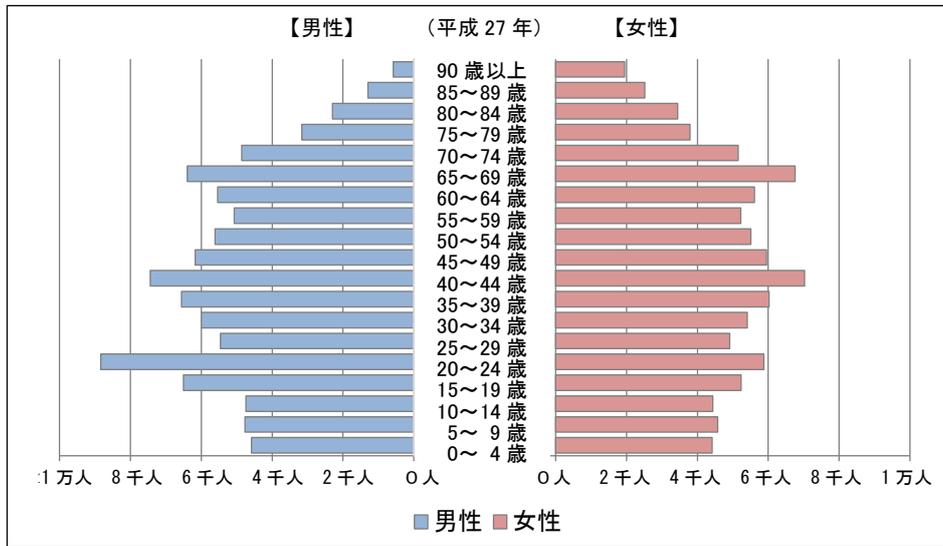


資料：東広島市長期人口ビジョン（平成 27 年 10 月）

## 用語

(※1) 社会増・・・転入者が転出者を上回ること。

【グラフ2-6】年齢階層別人口（平成27年）

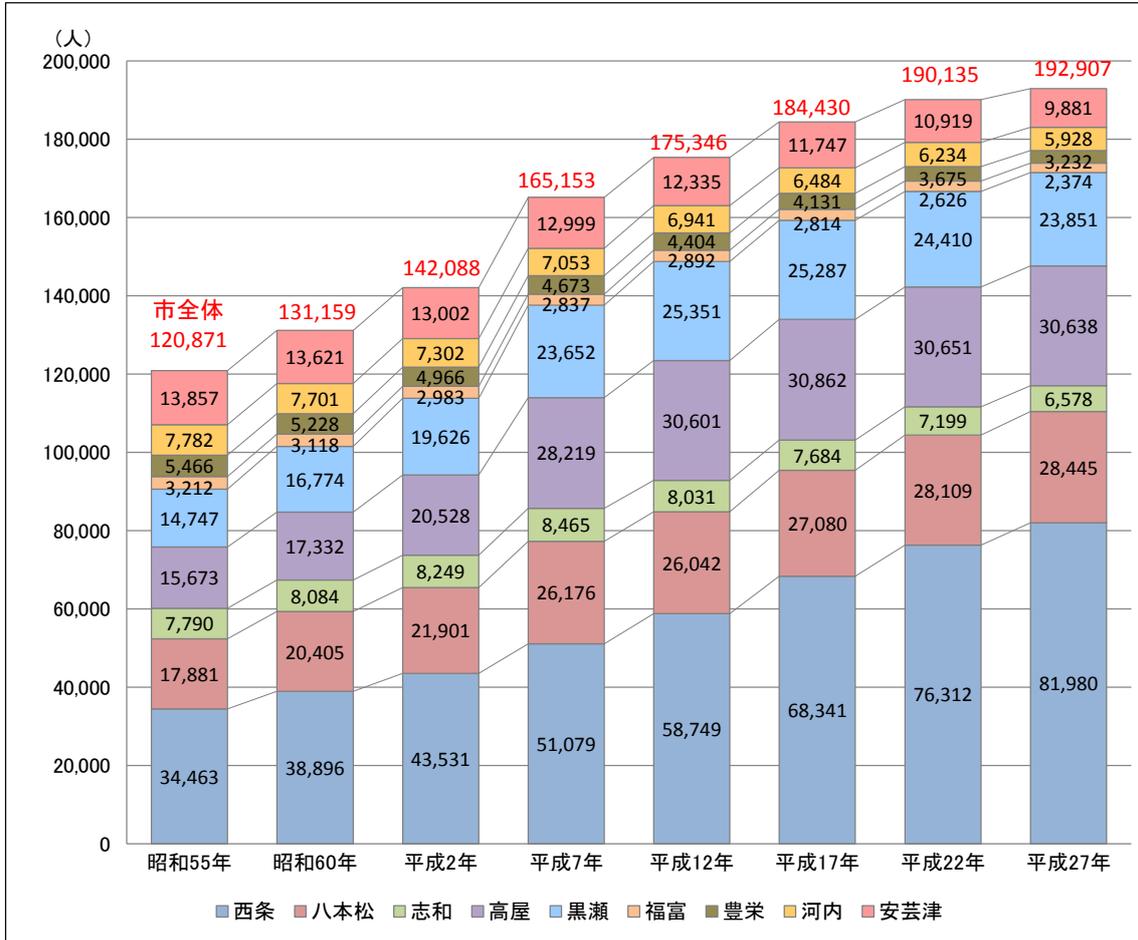


資料：国勢調査

(2) 地域別の人口の推移

本市の人口は、平成27（2015）年国勢調査によると市全体で192,907人で、近年、西条町、八本松町以外の地域では横ばいまたは減少傾向となっています。

【グラフ2-7】東広島市の人口推移



資料：国勢調査

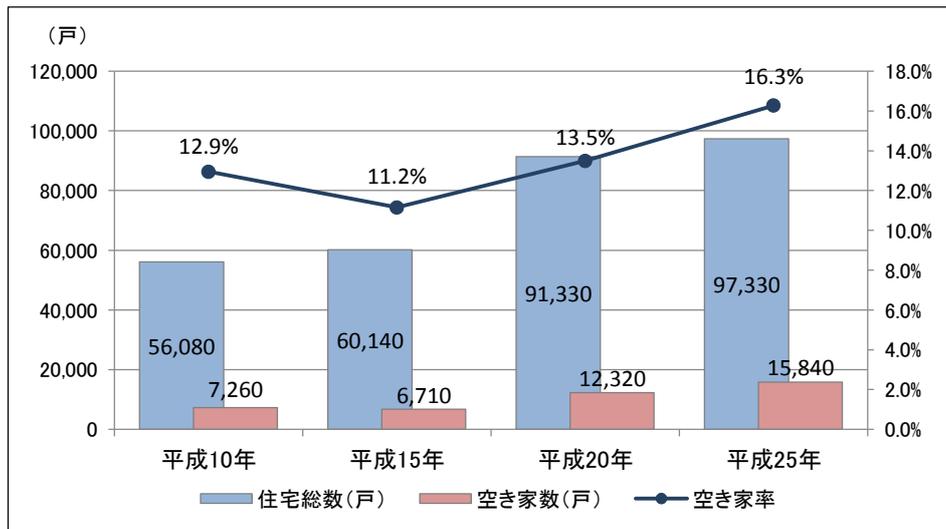
## 2-4.住宅数と空き家の状況

本市の住宅数の状況は、企業誘致による生産年齢人口の増加等により増加傾向にあり、平成25（2013）年の市内の総住宅戸数は約97,330戸と市内の総世帯数の約80,970世帯を上回っています。

また、住宅の築年数を見ると、県全体に比べ平成3（1991）年以降に建築されたものが多く、比較的新しい年次に新築された住宅が多いことがうかがえます。

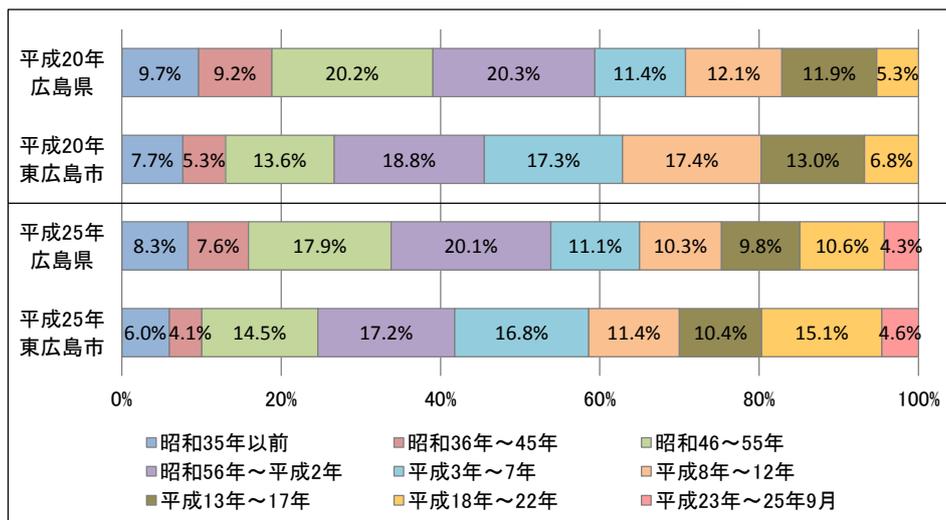
一方、住宅数の増加に伴い、空き家となる住宅の数も増加傾向にあり、住宅・土地統計調査による空き家率（\*1）は16.3%まで上昇しています。

【グラフ2-8】住宅数と空き家率の推移



資料：住宅・土地統計調査

【グラフ2-9】持ち家の築年別ストック数



資料：住宅・土地統計調査（平成20年・25年）

### 用語

（\*1）空き家率・・・住宅数（戸）に対する空き家数（戸）の割合